

Bangladesh の政治におけるジェンダーの叫び ムニマ・スルタナ (Bangladesh)

ラッキー・アクターの Bangladesh における政治の表舞台への登場は少なからず劇的でした。彼女は、教育機関での指導者としては成功していましたが、今年の2月の第1週目までは人びとに知られる存在ではありませんでした。彼女の力強い声で発せられるスローガンや人びとを勇気付ける言葉は、彼女の人気を数日のうちに高めました。彼女の輝きのもとに国中から何万人もの人が数カ月にわたってダッカ中心部のシャーバグに集結しました。

ラッキーは 1971 年の独立戦争の戦争犯罪人に対する裁判を焦点とした、 Bangladesh ・シャーバグ運動の象徴として最後に登場しました。

ラッキーはダッカ市内の大学に通う優秀な学生です。 Bangladesh において、政治の世界は女性が活躍する舞台ではないという現実にもめげず、彼女は国の政治指導者になることを夢見ています。

Bangladesh における女性のリーダーシップは、与党そして最大野党の党首が女性であるにも関わらず、長年にわたり中身の無いものとなっています。国政への足がかりとして学生運動を行うのはよくあることですが、これはこれまでのところ男子学生にだけ言えることです。女性のリーダーは、男性が優位を占める政治の世界では生き残れないか、自身の専門分野や家族に、より関心を示すようになり、国の指導者になるという考えから遠ざかるかのどちらかです。この習慣は長年に渡って続いており、だからこそ、この国の女性指導者は数えるほどしかいません。



ラッキー・アクター

ラッキーは、他の数人の若い女性たちとともに、シャーバグ運動の中心的存在となりました。しかし、シャーバグ運動が始まった当初と比較してその勢いが弱まってくると、他の女性たちの姿を見かけることは少なくなりました。

ラッキーはこのような状況にあっても政治の世界にとどまり、男性からの不当な圧力と戦っていくことを誓っています。彼女は、彼女の指導能力によって教育機関の施設、例えば食堂の食事や送迎バスサービス、宿泊所が改善されたと話しました。彼女の左派グループは学生政治活動における彼女の役割を認めています。ラッキーは、指導能力をグループレベルから国政レベルへと質を高めていきたいと話しています。

Bangladesh では教育を通して指導力を発達させていくという文化がまだできておらず、若い女性が政治に関わることはまれです。現政権は国会議員定数のうち女性に割り当て

る議席を 50 議席に増やすことや、女性 5 名を内閣の一員とすることにより、女性の声を高めていこうと努めています。

しかし、依然として、バングラデシュの指導者は、その素質を問われ、政治活動に疑問が投げかけられ、批難されており、ラッキーも例外ではありません。多くの人びと、特に男性から、シャールバグ運動で彼女が一体何を成し遂げたのかといった疑問が投げかけられています。彼らは、彼女のスローガンに多くの人びとが心を動かされたという事実を認めたくないのです。

このような現状のもと、非政府系団体が国内全体であらゆる分野にわたって女性のリーダーシップを促進しようと努めていることは、わずかな希望です。バングラデシュの女性リーダー団体（BDWL）は 2008 年から活動を開始し、政治の政策決定場面に女性が関わる必要があるという意識を向上させるために、精力的に活動しています。女性たちは、近い将来、草の根レベルの指導者が国政レベルの指導者になることを望んでいます。ラッキーや他の若いリーダーたちもまた、女性たちの希望なのです。